

タイの呪符 (標本番号H0199377)



トルコの護符

(標本番号H0144219)

特集

呪
わざわい
禍を起こす術、魔を破る術

怨敵を陥れるための呪い、また、悪魔や怨霊などの祟りを祓うためのまじないなど、人間が利益を得たり、身を護るために靈的なパワーを操作するという営みは、風土や信仰の異なるさまざまな土地に存在する。日本にも破魔矢を飾るなどの風習が身近なところにある。しかし、素人が下手に呪術の真似事をすることは禁物。靈の力を操る「その道のプロ」の不可思議な技が頼られる。

モロッコのお守り入れ容器
(標本番号H169295-1)

呪いの思考

吉田 憲司 (よしだけんじ)
文化資源研究センター

本誌で「呪う」という特集を組むと
いう。今、なぜ、「呪い」なのだろうか。
確かに、陰陽師・安倍晴明をめぐる小

せて、その術の行使者を、それぞれ邪術
師と呪術師(もしくは呪医)と区別す
るむきもある。ただ、立場や状況に応
じて、この両者の区別はしばしば不分
明なものとなる。そのため、
逆に、呪術から人間関係や社会関係が
浮かび上がってくる。人類学が久しく
呪術に关心を注ぎてきた理由はそこに
ある。

地球上には、呪術が日常的に話題に
なる社会も少なくはない。私が過去二
五年間にわたって通いつけてきたアフリ
カ・ザンビア共和国のチエワの人びとの
社会も、そうした社会のひとつである。

チエワの社会では、とくに大干ばつや経済混
乱のおこった1990年以降、多くの人びとがキリ
スト教に入信した。写真是、スイオン聖霊教会の
洗礼の様子。人びとにとて、呪いの恐怖から
の解放が、入信の大好きな動機のひとつになっ
ている。ムロロ村、ザンビア、1994年

さて、その術の行使者を、それぞれ邪術
師と呪術師(もしくは呪医)と区別す
るむきもある。ただ、立場や状況に応
じて、この両者の区別はしばしば不分
明なものとなる。そのため、
逆に、呪術から人間関係や社会関係が
浮かび上がり、呪術を注ぎた理由はそこにある。



スイオン聖霊教会の聖媒による治療の様子。ニャマメ村、ザンビア、1986年

呪いから身を守るために、呪術師が嫌うとされる
植物から作った「薬」を、自宅の床に埋める。

カリザ村、ザンビア、1993年

右上／お金を集める「薬」。成分：アリケイの爪、
ビーズ、布、ヒュタシ、ヘリコブターの模型。ザ
ンビアのカバモ地方で1982年収集
右下／「ンテケ(飛行機)」。成分：小型の太鼓、
ヒュタシ、貝殻。これを元に、呪術師は飛行機
をつくり、長距離で飛行できる(できた?)とい
う。インカ村、ザンビア北部州で収集されたもの。
いずれも「フィッチクラフト(呪い)」展(ルサカ
国立博物館、ザンビア、1994年)より

そうではない。邪術師が人間の能力を
超えるさまざまな能力をもつとされる
ことに込められているメッセージは、まさ
に、邪術師は人に非ずという上であり、
言い換れば、チエワの人間には、その
ような人間はないというところにはかな
らない。だからこそ、重大な不幸の原因
と告発され、「呪い」の行使を認めさせ
られた人物は、チエワの領域から追放さ
れてしまうことになる。

とはいっても、チエワの社会に「呪い」の
行使が存在しないかといえば、決してそ
うではない。筆者が、薬草医に師事し
て、「薬」の知識を教わっていた時期、
夫の浮気を阻止する「薬」を求めてき
た女性へ、その薬草医が「薬」を処方
する場に居合わせたことがある。夫の

行為を特定するために靈媒や呪医のも
とへ通う。常習的な「呪い」の行使者、
すなわち邪術師には、さまざまな神秘
的なイメージが付与されている。邪術
師は、自分が呪い殺した人物の死肉を
食う。邪術師は、自ら動物に変身する
ほか、動物や目に見えない虫を使い魔
として、他人に危害を加える、などとい
つたものである。西洋の魔術師は、ホウ
キに乗って飛ぶが、チエワの邪術師は、ザ
ルに乗って空を飛ぶという。なかには、
自ら飛行機やヘリコプターをつくりだす
ものもいるとされる。

こうしたこと書き連ねると、あた
かもチエワの人びとのあいだに、人を呪
うような人物が多数いるかのように受け
とめられるかもしれない。が、じつは

ど、歴史上の過去の出来事、あるいは別
世界の出来事と考える読者も多いはず
だ。

「呪い」とは、特別な力をもつとされ
る言葉や「薬」を用いて、他人に危害
を加えようとする行為をいう。呪術(あ
るいは魔術ともいう)と同一視されが
ちであるが、呪術には、他者に危害を

浮氣を防止するという正当な目的をも
つ以上、その妻に自分が「呪い」を行使
するという意識はない。しかし、知らぬ
間にその「薬」を使われた夫の側から
すれば、それは明らかに「呪い」の行使
を受け取られることになる。その点か
ら見る限り、チエワの社会には、明ら
かに「呪い」の行使とそれに用いる「呪
い」の「薬」は存在している。

しかし、このような意味での「薬」と
いうのは、われわれが身に着ける「お守
り」ときわめて性格の近いものである。

また、呪文によって他者に危害を加えよ
うとする行為は、インターネット上の中
傷や流言蜚語によつて、他者を攻撃す
る行為と通じ合う。想像の世界で、邪
術師が送り出すさまざまな動物の格好

をした使い魔というのも、アニメのポケモ
ンたちのイメージと奇妙にも重なり合う。
私たちのあいだでは、不幸の原因を
誰かの「呪い」のせいだと考えることは
あまりない。しかし、近親者や身の回
りに不幸が続くと、私たちもまた何
か特別な力がそこに働いているのかも知
れないと疑いをはさみはじめるのではないか
だろうか。ある者は、その理由を風水
に求め、またある者は死者や祖先に求
める。「呪い」もまた、そうした、説明
のつかない出来事に対する当座の説明、
あるいは「レッテル張り」の行為のひと
つにほかならない。私たちの思考と、「呪
い」が日常的に話題になる社会の人び
との思考とは、それほど隔たつたもので
はないようだ。

タジクのお守り入れ
(標本番号H12450)エジプトの邪視除けのお守り
(標本番号H0168553)午年
四十九才呪いの人形
(標本番号H0036686)

「必要悪」の呪い イスラーム世界のスイフル

清水 芳見

(しみず よしみ)



トルコのスプーン形護符
(標本番号H0144051)

トルコの呪術用スタンプ(標本番号H144015)

イスラームの聖典クルアーン（コーラン）には、不信仰者に対するアッラーの呪い「ラウナ」についての言及がある。ちに見られる（たとえば第二章八九節）。ムスリム民衆のあいだでは、こうしたアッラーの呪いのほかに、人間が人間に呪いをかける行為「スイフル」が古くから知られている。このことは、クルアーンの第一章四節にひもに結び目をつくり、それに息を吹きかけることで誰かに呪いをかけようとする老婆の存在が記されていることからわかる。

クルアーンの記述（第二章一〇二節）にも示されているように、イスラームでは、災いをもたらすことを目的として人に呪いをかけることは、好ましくはないとされ、ハディース（預言者ムハンマドの言行に関する伝承）のなかでも、ムハンマドによって非難されている。

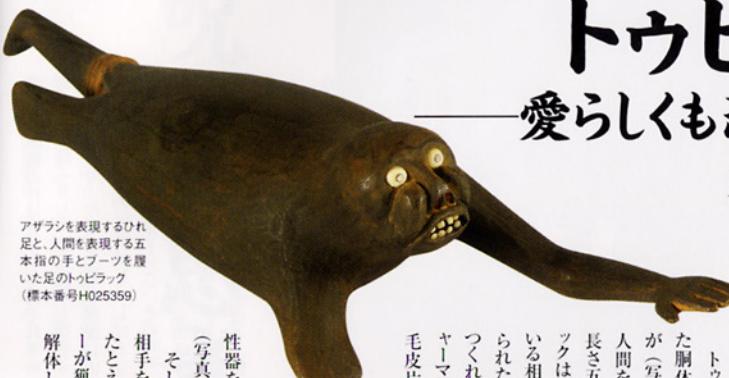


まじない鉢。クルアーンの章句ほかがアラビア文字で書かれている(12~14世紀、エジプト・シリア、個人蔵)

トウピラック 愛らしくも恐ろしい怪物

スチュアート ヘンリ

放送大学教授



アザラシを表現するひれ足と、人間を表現する五本指の手とブーツを履いた足のトウビラック
(標本番号H025359)

(写真左下) そして、水に流されたトウビラックは相手を探し出して呪い殺したのである。たとえは呪いの対象となっていたハンターや一が獣に出てアザラシを仕留めたとき、解体してみたら、いろいろな種類の動物

トゥビラックは、動物や鳥をかたどった胴体に人間の頭をつけたものが多いが（写真右下）、アザラシなどの動物と人間を合体したものもある（写真上）。長さ五一一〇センチの伝統的なトゥビラックは人に見せるものではなく、恨んでいる相手を睨い殺すためにひそかにつくられたものであつた。といっても、誰もがつくれるものではなく、依頼を受けたシヤーマンが、半ば腐った動物の肉と骨を混ぜ、毛皮片やコケに包み、恨んでいる相手の髪の毛などそれをなかに入れる

グリーンランドへ旅すると、イスイト、アート店や飛行場のお土産店で必ず見かけるのが、トウビラックの彫刻である。その愛らしくもグロテスクな姿が観物客やコレクターの心をとらえ、イスイト、アートのモチーフのひとつとして世界的に有名になっている。しかし、トウビラックはそもそも誰かを殺すための呪物で

呪いの目的に使われなくなつてゐたトゥービラックは、歐米人の目には愛らしい怪物と映り、グリーンランドの代表的なシンボルになつた。現在は、名声を博すし、制作者がグリーンランド各地で活躍している。

だったので、本物は現存していない。文化人類学（民族学）者がグリーンランド、イヌトイを調査はじめた九世紀後半に、トウピラックという言葉を知り、その姿を再現してつくりもらつたものがある。多くの観光客がグリーンランドを訪れる。

アザラシとペニス(グリーンランド・ヌーク博物館蔵)。制作依頼者のペニスを吸って生命授けるトゥビラックが呪いの対象の人を探しだして殺すのだった

アザラシとペニス（グリーンランド・ヌーク博物館）。制作依頼者のペニスを吸って生命授けるトゥーピックが呪いの対象の人を探したて殺すのだった

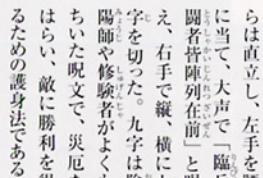
アザラシとペニス（グリーンランド・ヌーク博物館）。制作依頼者のペニスを吸って生命授けるトゥーピックが呪いの対象の人を探したて殺すのだった



友達の呪術師（左）。葬送の儀式をおえた帰りの道。スボンにTシャツがふだんの服装



高床式の樹皮家屋。ぼくがメルレに襲われたときのむらびとの家。いまではほとんど見られなくなった

ガンドインガンの演奏
図・写真提供:Danongan S. Kalanduyan氏

東大寺布哇別格本山

死者の影の魂メルレはフクロウとともに森に住み、夜になると動きまわる。それはときに親族を訪ね、原因不明の病気をもたらす。生前に恨みを抱いていた人が襲われると、外傷ひとつなく殺されてしまう、ともい。そんなメルレの姿を見ることができ、その力に対抗できるのは呪術師だけらしい。でもあの夜、メルレはなぜ外国人のぼくを襲おうとしたのだろう。

これを体験したのは、オーストラリア北部アーネムランドに暮らすアボリジナル、ジナンの人びとである。

朝を待ちかねて、長老にそのことを話した。
「それはメルレだよ。以前このむらで大きな葬式をした。その男の影の魂が現れたのだろう」。
聞かないほうがよかつた。その夜は耳をそばだてるばかりで、少しも眠れなかつた。その夜は耳をそばだてるばかりで、少しも眠れなかつた。

そんなことがあった数日後、四〇歳代なかばになつた長老の息子が、トラックに乗つてまちからやつてきた。紅茶を飲みながらしばらくくつぐと、夕方になつて隣りむらへ病人の見舞いに行くとい。誘われるまま気軽にトラックに乗り込んだ。

陽が落ちかけたむらは、重苦しい空氣につま

正在する。いつもは陽気に声をかけてくれる若者も、押し黙つたままである。そのうえ今夜は月がない。いやな感じ。病人は女性だつた。長老の息子はつぶせになつた婦人のかたわらにたき火を用意させ、それに手をかざしている。しばらくすると、彼は婦人の胸をさすり背中を手で押し、口を付けて強く吸う。突然、婦人は何かをはき出すよくな、人のものとは思えない奇妙な音をたたいた。

「これで心配ない。メルレは出た」。

そういういかにも疲れたといったふうで、かたわらに座り込んだ。友達は呪術師だったのだ。

メルレと呪術師

松山利夫（まつやまとしお）
民族社会研究部

森のむらでのことだつた。皆が寂静まったく夜更け、異様な物音に目覚めた。落ち葉を踏み、枯れ枝を踏み折るよう何が動いている。それはまるで、入り込む隙間を探すかのようにぼくの小さなアントをまわっている。わずかなあいだだたはずなのに、手がじっとりと汗ばんできた。

朝を待ちかねて、長老にそのことを話した。

「それはメルレだよ。以前このむらで大きな葬式をした。その男の影の魂が現れたのだろう」。

聞かないほうがよかつた。その夜は耳をそばだてるばかりで、少しも眠れなかつた。

そんなことがあった数日後、四〇歳代なかばになつた長老の息子が、トラックに乗つてまちからやつてきた。紅茶を飲みながらしばらくくつぐと、夕方になつて隣りむらへ病人の見舞いに行くとい。誘われるまま気軽にトラックに乗り込んだ。

陽が落ちかけたむらは、重苦しい空氣につま

正在する。いつもは陽気に声をかけてくれる若者も、押し黙つたままである。そのうえ今夜は月がない。いやな感じ。病人は女性だつた。長老の息子はつぶせになつた婦人のかたわらにたき火を用意させ、それに手をかざしている。しばらくすると、彼は婦人の胸をさすり背中を手で押し、口を付けて強く吸う。突然、婦人は何かをはき出すよくな、人のものとは思えない奇妙な音をたたいた。

「これで心配ない。メルレは出た」。

そういういかにも疲れたといったふうで、かたわらに座り込んだ。友達は呪術師だったのだ。

アギマボ。
黒魔術から身を守るまじないの図柄

ゴングの競演と 黒魔術

寺田吉孝（でらだよしたか）
民族文化研究部

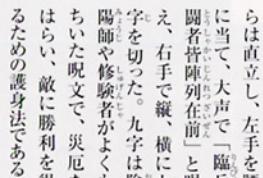
フィリピンのイスラーム教徒の結婚式では、クリントンというゴング音楽が演奏される。演奏には誰でも参加できるため腕に自信がある者は、結婚式があるむらに乗り込んで技を競う。私にこの音楽を教えてくれたダノンガンさんは、ガンドインガンという楽器（四つ一組のつりゴン）の名手である。目にも留まらぬ撥さばきはいつ見てもスリリングだ。

ある日、彼は伴奏者を従えて腕試しに行つた。ところが、演奏が佳境に入ろうとしたとき、バタッと撥を落としてしまつたのだ。手にまつたく力が入らない。こんなことは初めてだ。伴奏をしていた太鼓奏者が騒ぎだした。きっと黒魔術（パンガリンタオ）のせいに違ひないと。両チ一ムが掴み合いのけんかになつたが幸い怪我人はなかつた。演奏家がボディーガードを引き連れているのは、このいう時のためである。

相手の演奏を邪魔するには二つのやり方があるといふ。ひとつは、アラビア語で書かれた秘密の文言を小さな紙に書き、これを撥に仕込んでおく。自分の演奏が終わったら、さりげなく撥を楽器のもとにおいて去り、相手がその撥に触れば、手や腕が引き攣り演奏できなくなる。もうひとつの方は、黒魔術師だけがもつてゐる書物の一説を暗記し、相手に吹きかけるように唱える。一目置かれる演奏家たちは、家を出る前にクルアーンの節を唱えたり、まじないの文様（アギマ）を描いた紙切れを身につけて黒魔術から身を守ろうとする。一〇年ほど前に見た音楽コンテストでは、参加者が黒魔術を使わないようよびかけていた長老の姿が印象的だつた。音楽家同士の嫉妬は深く、激しいのだ。

私はといえば、この音楽を習い始めたて三五年たつが、いまだに黒魔術の心配をするなどという贅沢な悩みをもつたためしがない。

私はこれまで、この音楽を習い始めたて三五年たつが、いまだに黒魔術の心配をするなどという贅沢な悩みをもつたためしがない。



東大寺布哇別格本山

ハワイの 憑きもの落とし

中牧弘允（なかまきひろぢか）
民族文化研究部

ハワイに日系人女性の建立した立派な寺院がある。東大寺布哇別格本山と称し、奈良の東大寺で修行した尼僧故平井辰昇による宗教的教説活動で戦後一世を風靡した。平井は不動信仰を中心地蔵や觀音、阿弥陀如来、薬師如来、さらには



ハワイの東大寺布哇別格本山でおこなわれる「憑きもの落とし」